

带状疱疹ワクチンの定期接種化後の対応と考え方

2025 年 4 月から带状疱疹ワクチンが定期接種になります。そのワクチンには 2 種類あります。

1) 生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン「ビケン」®/BIKEN：以下水痘ワクチン）
2014 年から 1 歳から 3 歳未満児の定期接種として、3 か月以上の間隔で 2 回接種している水痘予防の生ワクチンが、2016 年から带状疱疹予防ワクチンとしても認可されている。水痘生ワクチン類似の米国製 Zostavax®をもとに認可された。

生ワクチンであり、悪性腫瘍で治療中あるいは免疫不全状態の人には接種できない。
皮下接種。接種時痛や副反応はあまりない。

- 発症予防効果は、接種初年度は約 62%、翌年から 40%台で、5 年間有効。
- 年代別有効率は 60 歳台：64%、70 歳：41%、80 歳以上：18%
- 带状疱疹の発症を 5 年間で 51.3%減少させる。
- 後遺症としての神経痛を 5 年間で 66.5%減少させる。

2) 不活化ワクチン（Shingrix®/シングリックス®/GSK：以下シングリックス）
米国で開発された組み換えサブユニットワクチン（ウイルス表面の有効な抗原にアジュバントを加えて免疫を強くしたもの）。

国内では 2020 年 1 月に発売され、名古屋市ではその直後の 3 月から半額公費助成で接種を応援してきている。すでに全国 60%以上の自治体で何らかの助成が出ている。
名古屋市では 2025 年 3 月は 85%の市民が選択している。

2 か月以上の間隔（6 か月以内）で 2 回、上腕三角筋に筋肉内接種する。

接種時痛があり、筋肉痛は 2-3 日で治る。

免疫不全状態の人でも接種できる。

- 発症予防効果は接種後 3-4 年間で、50 歳以上で 97%、70 歳以上で 91%以上と高い有効性がある。
- その効果は 11 年後も 82%と長期に有効。15 年後まで検討継続中。
- 後遺症としての神経痛を 4 年間で、50 歳以上は 100%、70 歳以上は 85.5%減少させる。

3) 定期接種の対象者

- 定期接種の対象年齢は 65 歳になる年度、それを超える方については、高齢者肺炎球菌ワクチン(23 価)と同様、5 年間の経過措置として、5 歳年齢ごと（70、75、80、85、90、95、100 歳※）の年度を対象とする。 ※100 歳以上の者については、定期接種開始初年度に限り全員を対象とする。
- 带状疱疹にかかったことのある者についても定期接種の対象とする。
- 定期接種の対象者が既に一部の接種を任意接種として行った場合は、残りの接種を定期接種として扱う。
- 带状疱疹ワクチンの交互接種については、認めない。
- 定期接種化の開始は、令和 7 年 4 月 1 日とする。

この内容からすると、既に同様のワクチンを任意接種した場合は対象とならない。
しかし任意接種の接種時期、その有効性の記載はない。公費助成が始まって以降での選択接種からと考えることも可能である。自治体によっては、主治医が必要と判断した場合には、定期接種も可能かもしれない。

そこで、今後の有効な接種の考え方を考えてみる。

1) 既にシングリックスを 2 回接種しているなら 10 年以上おそらく 15 年は有効で、追加接種は不要である。接種時痛と筋肉痛があり、追加接種は避けるほうが良い。15 年後の判断を待つべきと考える。

シングリックスは 2020 年に始まったばかりで、既に接種済みの人は 65 歳以上でも対象外となる。50 歳で 2 回接種した人は 65 歳になった時には定期接種できるかも。

2) 公費助成開始後に、水痘ワクチンを 1 回接種しているだけなら、65 歳（あるいは指定）の年度になり次第、シングリックスを 2 か月以上あけて 2 回接種を任意接種でも勧める。公費助成開始前の接種なら、指定年度での定期接種も可能と考える（接種医師の判断）。水痘ワクチンの带状疱疹に対する効果は限定的であり、水痘ワクチンでの再接種は勧めない。

3) 水痘ワクチンを接種していて、今回 65 歳（あるいは指定）の年度になってシングリックスで追加しても副反応が強く出ることとは考えられない。米国では Zostavax[®]後のシングリックス接種は推奨されている。因みに、アメリカで带状疱疹ワクチンはシングリックスのみで、生ワクチン（水痘ワクチン類似の Zostavax[®]）は発売中止された。

4) 有効率の考え方；10 人の患者が事前にワクチンを接種していれば予防できた人数
シングリックス；91%有効あるいは減少：9 人は予防、82%：8 人は予防、
生ワクチン；64%有効：6 人は予防、41%：4 人は予防、18%：1 人は予防

整理すると、

A) シングリックスで 2 回済んでいる人は、15 年以上追加接種は不要。

水痘ワクチン接種して、5 年後の水痘ワクチンでの追加は推奨しない。

B) 水痘ワクチンを 1 回接種している人は、定期接種の年度になったらすぐにでもシングリックスで 2 回接種を始めよう。1 か月前に水痘ワクチンを接種していても、シングリックスでの追加接種は可能であり有効。

C) どちらも未接種の人は、定期接種の年度でシングリックスの 2 回接種を始めよう。

D) 50 歳以上で公費助成が出ている自治体では、定期を待たずに同様に利用しよう。

E) 水痘罹患の記憶がないなら、先に「麻疹風疹おたふくかぜ水痘抗体検査」をして、

①水痘の免疫が陰性なら、水痘ワクチンを接種して水痘の予防をしよう。

②陽性なら不顕性感染していたと考えて、シングリックスで予防を始めよう。

F) すでに公費接種で生・不活化どちらかを接種した人は、原則として定期接種は使えない。今回任意接種での追加は可能だが自費接種となる。

G) 高齢者にも母子手帳予防接種記録類似の高齢者ワクチン手帳を交付したい。